

# SCI Agritech @JICA筑波 NEWSLETTER

Vol.03  
2020年09月号

## 大盛況!!三祐初の試み☆来訪×オンライン勉強会☆ ～専門家ブラッシュアップ研修(病害診断編)を開催～

2020年8月25日(火)に、三祐コンサルタンツとJICA筑波の共催にて「病害診断アプリ」を利用した研修を開催。当社営農グループ、及びDX推進WGアグリテック推進チームにて企画、準備を進め、当日はJICA農業専門家22名、三祐コンサルタンツ社員12名(来訪18名、オンライン16名)の参加者が集いました。

研修の主な目的は、①病虫害防除法を理解する、②(目視に加えて)診断アプリを試行する/精度を確認する、③アプリを活かした技術支援の方法を検討する等。

講義形式にて、JICA筑波研修指導者の加来先生より、病害診断における基礎的な知識や簡易診断方法について各国の事例を交えながら説明いただいた後、敷地内のハウス(トマト、キュウリ等)と圃場(キャベツ)へ移動して、4つのアプリ\*を試行。その後、実験室における病徴観察と簡易診断について学び、最後には実際の案件の中でのアプリの活用法などについて議論を行いました。

試行の結果、アプリの精度はまだ100%正確な診断が出来るほど高くはないが、現場で補助的なツールとして活用していくことへの有用性が見出されました。

### プログラム

- ・10:00～11:30【講義】  
病害の診断方法と診断結果に基づく防除法の選択についての概論
- ・11:30～12:00【講義】  
病害診断アプリの紹介、ダウンロード等
- ・13:00～14:00【実習(現地)】  
①病徴観察およびアプリによる病害診断、②両結果の差の確認
- ・14:00～14:45【実習(実験室)】  
病徴観察および簡易診断実験
- ・14:45～15:00【実習】  
オンラインご参加者によるアプリ病害診断のフィードバック
- ・15:00～16:00【ディスカッション】  
病害診断アプリを技術支援に盛り込む際の注意点・可能性

※使用したアプリ(利用可能なOS)

- ①レイミーのAI病虫害雑草診断(iOS, Android)、②Agrio(iOS)、③Plantix(Android)、④病虫害診断&栽培SNS SCIBAI-サイバイ(iOS)



講義の様子

アプリのダウンロードと試行

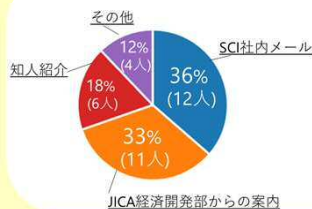
圃場でのアプリ試行とオンライン配信

実験室での様子

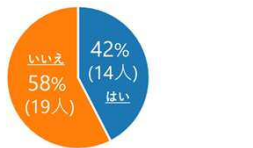
### 研修後アンケート結果

本研修は、三祐コンサルタンツが提供する初の試みであり、さらに来訪参加に併せオンライン配信の実施と、実地も組み入れた研修の遠隔実施についての可能性を試す“トライアル”でもありました。今後、こうした研修を発展させていくための改善点等を把握することを目的に、参加者へのアンケートを実施しました(回答者数計34名)。以下にその結果の一部を紹介します。

Q. どのように研修を知ったか?



Q. 病虫害アプリを知っていたか?



Q. 病虫害アプリを使用したことがあったか?



Q. 研修のテーマに関して課題を感じていたことは何か?

A. 自身の技術・知識不足、アプリの精度・信頼性、想定される利用方法やその限界、普及員の技術・知識不足、任地で適用可能な方法を知りたい etc.

Q. 今後の研修として関心がある内容・テーマ(複数回答)

営農、栽培技術(26)、病虫害(23)、スマート農業・ICT活用(19)、土壌改良・土作り(18)、農業(18)、収穫後処理(16)、フードバリューチェーン(14) (上位7回答掲載)

Q. 研修全般についての意見・コメント

来訪参加者の声

- ✓ 講義、実験室、圃場とバランス良くプログラムされていた。(+)
- ✓ 広く植物の病害診断という点で、講義、ディスカッションがありとても学びが多かった。(+)
- ✓ コンサルタント主催でこのようなオープンな研修が実施されたことは、とても良かった。(+)
- ✓ リアルとリモートの両面でのトライアルは、今後の新しい技術支援を考えるうえで、とても参考になった。(+)

オンライン参加者の声

- ✓ 遠隔地においても研修に参加できて良かった。(+)
- ✓ オンラインでも病害診断アプリの使い方がよく理解できた。(+)
- ✓ 圃場での先生の話もマイクで十分に聞き取ることができ、撮影している方が補足で説明してくれたので良かった。(+)
- ✓ 圃場での実演中カメラのぶれが多く見辛かった。(−)
- ✓ ディスカッションに関しては、話に入るタイミングが難しいように感じた。(−)

HOT Keyword

“農業共創ハブ”

JICA筑波では、「農業技術と農業人材の共創サイクル(農業共創ハブ)の構築」を推進中。JICA筑波のリソース(施設・研修員・土地等)及び研究学園都市のリソースを活用し、以下3つの事業を循環させる共創サイクルを構築することで、農業技術、農業分野の開発人材及び農業分野の開発事業を生み出す拠点(農業共創ハブ)の実現を目指しています。

- 新規農業技術に係るビジネスマッチング
- 新規農業技術の研修事業への導入と外国人材受入支援
- 開発協力人材育成

今回の研修は、農業共創ハブの一環として、当社との共同企画にて開催される運びとなりました。

### 今後の予定

次回研修:「稲の収量構成要素に基づく収量調査」@JICA筑波(10月2日)

2020年9月25日(金):  
JICA筑波収穫祭(JICA研修員による収穫作業)、それに合わせて圃場の刈り取り、乾燥作業

2020年10月2日(金):  
イネの収量調査技術研修@JICA筑波